

久し振りの韓国旅行

大津 隆文

五月下旬三泊四日の日程で久し振りに韓国旅行に出かけた。一行は高校の同級生三人（全員八四歳）、その中の紅一点Tさんは長年日韓交流活動に携わり、韓国語も流暢、さらに面倒見もよく大変心強い存在。お蔭で男性二人は大船に乗った気分だった。

行き先は韓国の南西部、順天（スンチョン）と木浦（モッポ）。ソウルから列車か高速バスで三〜四時間だ。車窓からは新緑の山野、田植えが終った田園が美しく、故里に帰って来たような気がした。

順天は広大な湿地が有名で、どこまでも続く身の丈ほどの葦原の中の散策路を楽しんだ。上空を白鷺がどこを目指してか飛んでいた。

木浦は歴史ある港町で、近くの島まで伸びる韓国一長いケーブルカーから多島海を眺望。また日本統治時代の雰囲気が残る街を散策。韓国では日帝時代の建物等は撤去されることが多い中、珍しく保存されている。その一つの旧総領事館（外壁には韓国人が反発する旭日旗の文様）は木浦近代歴史館として、「抑圧と抵抗」の時代を伝えている。館の正面には例の少女像が設置されていたが、展示はそれほど極端ではなかった。例えば木浦からは日本への米の積み出しが多かったが、よくある米の収奪といった常套句はなかった。

私にとって韓国旅行の楽しみは食べること。今回一番美味しかったのは順天の海鮮料理店、スズキの刺身（日本の醤油を出してくれ嬉しかった）、タイなど三種類の焼き魚をお腹一杯味わった。韓国では料理を頼むと黙っていても副菜が十種類位つく。味も色々様々で毎食大いに楽しませてもらった。またお酒は二人がほとんどいけないので、毎晩私がほぼ一人でマッコリを一本空けさせてもらい至福だった。

旅行中道を尋ねたりすると皆親切に教えてくれた。食堂で働くおばさん達は誰も元気で愛想がいい。日本へ行ってきたとか、子供が留学中という人も珍しくなかった。親近感を覚えた。現大統領に替り日韓の政治的關係も好転しており、今の良い雰囲気が続いてほしい。